

2021. 5. 20

多和田葉子 複数の私 Vol. 05 + 芸小クリエイションシリーズIII

くにたちオペラ
「あの町は今日もお祭り」

企画概要



くにたちオペラ「あの町は今日もお祭り」 あらすじ

天満宮のお祭りの夜。遠くから聞こえてくるお囃子。「でんでこ でこでん」。その匂いに誘われ、祭りの夜にひとり迷い込んだクローニーが出会ったのは、この地に大洪水と豊穡をもたらす金魚。金魚が歌う「君の探している人は 百年前に死んでしまったかもしれない 百年後に生まれてくるのかもしれない」。縄文から現代まで、多和田葉子が描く国立の精神地図が、くにたちの境界を超えて世界の今を見せる。

◆ 多和田葉子氏との協働を重ねた成果が、書下ろし新作オペラに

くにたち市民芸術小ホールでは2016年から、国立市出身で現在ドイツ在住、世界的に活躍されている作家・多和田葉子氏との企画「多和田葉子 複数の私」シリーズを実施してきました。氏の幅広い芸術活動を紹介したVol.01,02に続き、Vol.03,04では市民出演・参加による演劇・朗読会を行い、地域の文化を市民とアーティストの協働で表現し担えうることへの確信を得ました。

Vol.05となる今回は、多和田氏の賛同も得て満を持しての書下ろし新作オペラを制作・上演します。2022年春、世界初演となるこの公演は当ホールが1987年に設立以来、35年の年月をかけて初めて手掛ける創作・新作オペラです。このまちからしか生まれえない作品でありながら、世界中のどのまちにも起こり得る普遍的な物語を、挑戦的な手法の数々で創り上げます。

◆ 唯一無二の、新たな芸能が生まれる

芸術小ホール、国立市にとって価値ある芸術財産として未来へつなぐために、此処でしかありえない新しいオペラ、新しい芸能の誕生を目指します。

「価値」「新しさ」とは、以下の特徴・手法に込められています。

1. 芸能の根源に立ち返りつつ、新たなオペラの境地を拓く

人間が人間として社会生活を営み始めたころ、ことば・音楽・踊りが一体であったはずの「芸能」。参加アーティストたちはそのことを深く探求し、今の時代に甦らせることで既存のオペラ概念を突き破ります。

2. 市民が重要なオペラ

コーラスの語源でもあるコロスとは、古代ギリシア劇の合唱・コーラス隊を意味します。観る人々を舞台上で起こっていることへと強く誘う役割を担い、そのためくにたちの街を愛し、大切に思う市民である必要があります。その広がりには市外からやってくる「市民」も迎え入れこの街に興味を抱く人々を増やしていきます。

また、こども出演者たちが重要なポジションに配されます。おとなたちと同等に参加し作品の価値に貢献するその経緯を通じてこどもたちが大きく成長する、ここならではの機会を提供することになります。

さらに、歌うことなく舞台上に「存在する」市民も募ります。単なる「市民参加型」オペラではなく、市民でなければならない理由があるのです。

そのため、この作品では指揮者、指導者を置きません。誰かの指示通りに動くのではなく、すべての出演者が自分自身の動きや演奏に責任を持ち、プロ・アマの隔てなくお互いの存在を思いやりながら創る作品です。

3. 国立市ゆかりのアーティストによる書下ろし作品

日本のみならず世界的に読者を持つ多和田葉子氏は、出身地であるくにたちに特別な思いを抱かれており、創作の根源がこの土地にあるといっても過言ではありません。この事業のために新たな戯曲を書かれたということは、今後国立市に世界中から注目が集まる可能性を秘めています。

4. 各分野で卓越した活動を行うアーティストの起用

市民の存在の重要性とともに、アーティストたちの担う役割は言うまでもなく大きくまた作品を世界レベルへ引き上げる原動力となります。作品の立ち上がりから、中心アーティスト達は頻りに打ち合わせを重ね、作品の方向性や作り方について検討してきました。こうした創作過程を含め、大きな芸術的価値をもつ財産となることを確信しています。 ★アーティストプロフィールは P5～

《メッセージ》

劇場芸術は、多声社会の実現を目指す場です。わたしたちの生活の中にあるいろいろな課題を、拡張して、解決に向けたそのプロセスを考える場でもあります。

くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』は、“オペラ”という劇場芸術の様式を出発点に、現代の芸能を生み出す取り組みです。大海を旅するような多和田葉子さんの言葉と、人間の身体性を DNA から躍動させる平野一郎さんの音楽が、日本語によるオペラの新しい地平を開きます。

出演者には、国内外で広く活躍する歌手・俳優の方々をお招きしました。誰かが自分のために歌ってくれる、踊ってくれるということを目にするのは、強烈な体験です。接触や交流という行為が、“喜び”や“安全”ではなく、相反する“不安”や“恐怖”の象徴となったように見える今、人と人が出会うときには最初からその両方ともがあったということに私たちは気づいているからです。

すべての過程が挑戦的なこの新作オペラにおいて、重要なのが市民出演者によるコーラスとアンサンブルです。歌う人、歌わない人、踊る人、踊らない人。自分の声で、自分の体で、誰かと一緒にいられる。人も動物も、より生きやすい生活になるための、本当の多声社会がここに立ち上がることを祈っています。振付の北村成美さんをはじめ、音楽・演劇・ダンスなど多分野から集まったスタッフが総力でこの舞台づくりにあたります。

色々な役割を持つ人が劇場に集まり、対話し、アイデアを交換しながら、共にくにたちオペラをつくり上げる。このプロセスを通して、人と人のつながり、人と地域とのつながりの再生を目指すくにたち市民芸術小ホールの本企画に、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

川口智子

『あの町は今日もお祭り』演出

◆ 事業概要

タイトル： 多和田葉子 複数の私 Vol.05 *注¹ + 芸小クリエイションシリーズⅢ*注²

くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』

主催： 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団 くにたち市民芸術小ホール

助成： 2022 年度公演実施年に向け、外部助成金申請予定

公演日： 2022 年 4 月 30 日（土）・5 月 2 日（月）・3 日（火・祝） 3 回公演 開演時間未定

上演時間： およそ 120 分 + 休憩 20 分

会場： くにたち市民芸術小ホール ホール （東京都国立市富士見台 2-48-1）

作： 多和田葉子 / 作曲：平野一郎 / 演出：川口智子 / 振付：北村成美

出演： 吉川真澄（ソプラノ）、渡辺ゆき（アルト）、中嶋俊晴（カウンターテナー）、
平野太一朗（テノール）、奥秋大樹（バス）、滝本直子（俳優）、山田宗一郎（俳優）

楽隊： 池上英樹（マリンバ・打楽器）、多久潤一朗（フルート）、鈴木広志（サクソフォン）、
佐藤芳明（アコーディオン）、西谷牧人（チェロ）、悪原至（打楽器）、齋藤綾乃（打楽器）、
新野将之（打楽器）、三神絵里子（打楽器）

コーラス： 市民出演者（5 歳～ 混声 24 名）※2021 年 8 月公募オーディション予定

スタッフ： 舞台監督 伊東龍彦 / 照明 横原由祐 / 美術 谷口智子 /

衣裳 giee 岩戸洋一・本柳里美 コーラスマスター 谷本喜基 / 稽古ピアニスト 水戸見弥子
スタイリスト指導 せせらぎ（古賀彰吾） / 制作 齊藤かおり（くにたち市民芸術小ホール）ほか

幕構成・登場人物：

- 第1幕 「天満宮のお祭り」 クーニー / 金魚 / クーニーの姉 / コーラス
第2幕 「ヤヤホの宿」 宿の女主人 / 旅の男 / 旅の女
第3幕 「むずかしい時代」 子供 / 祖母 / コーラス
第4幕 「昭和の未来都市」 少女1 / 少年1 / 少女2 / 少年2
第5幕 「あまのじゃくのあまのがわ」 ターチ / クーニー / コーラス

主なスケジュール予定：

- 2021年5月 「オペラおためしワークショップ」
市民がオペラ稽古を体験する機会。参加を促すきっかけとします。
- 2021年8月 市民オーディション（第二次審査）
第一次審査は書類選考。市内のみならず、全国、全世界からの応募を受け付けます。国立市内で起こるこの創作に携わる人々がみな市民です。
- 2021年10月 全関係者 顔合わせ
- 2021年11月～12月 音楽・演劇・ダンス・声楽 ワークショップ
- 2022年1月～4月 リハーサル
- 2022年4/29（金・祝） ゲネプロ（A）（B）
- 2022年4/30（土）（A）公演 / 5/2（月）（B）公演 / 5/3（火・祝）（A）公演

***注1 「多和田葉子 複数の私」シリーズ**

国立市出身で現在ドイツ在住の作家・多和田葉子氏の幅広い芸術活動を紹介する企画。

Vol.01 2016年 ブックアート（美術家とのコラボレーション）

Vol.02 2017年 ジャズピアニスト高瀬アキ氏との朗読パフォーマンス

Vol.03 2018年 戯曲「動物たちのバベル」を市民出演者により上演。演出は川口智子氏。

Vol.04 2019年 市民による朗読会。講評は多和田葉子氏、川口智子氏、平野一郎氏。

***注2 芸小クリエイションシリーズ**

2019年度に立ち上げた企画。第一回目は多和田氏の戯曲「夜ヒカル鶴の仮面」「オルフォイスあるいはイザナギ」をそれぞれ川口智子氏、小山ゆうな氏演出で上演。多和田氏との関係性をより深めることとなった。第二回目の2020年度は、くにたちオペラ演出の川口智子氏作・演出、打楽器で楽隊に加わる新野将之氏によるこどもむけ新作音楽会「太陽のタネ」を上演、また同時に芸小ホール初制作映画の『太陽のタネ』を発表。



多和田葉子複数の私 Vol. 03
「動物たちのバベル」より
第一幕の1シーン



「動物たちのバベル」終演後、
作者多和田さんと出演者たち



芸小クリエイションシリーズⅠ
リーディング劇「夜ヒカル鶴の仮面」

お問合せ 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団

くにたち市民芸術小ホール 齊藤かおり saito@kuzaidan.or.jp

電話 042-574-1515 F. 042-574-1513 〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-48-1

= アーティスト プロフィール =

多和田 葉子 (たわだ ようこ) ・作家、詩人



ベルリン在住。国立市立国立第五小学校、第一中学校を経て、都立立川高校、早稲田大学文学部を卒業。日本語、ドイツ語での創作が世界的に高く評価されている。芥川賞、野間文芸賞、早稲田大学逍遥大賞のほか、2016年クライスト賞、2018年全米図書賞受賞。高瀬アキとの音楽性に富む朗読パフォーマンスを継続し、さいたまトリエンナーレに招聘されるなど活動は多岐にわたる。2017年くにたち文学賞審査員に就任し地域文化の発展に貢献。また2018年1月開催のケルン詩祭芸術監督に就任。2019年度朝日賞受賞、2020年紫綬褒章。

平野 一郎 (ひらの いちろう) ・作曲家



丹後國宮津出身。京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。在学中より各地の祭礼とその音楽を巡る踏査を始動。2001年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創作を展開。響きや調べ、声と言葉の根源をたずね、失われた身体性・全人性を呼び覚ます音楽世界を志す。日本交響楽振興財団作曲賞最上位・日本財団特別奨励賞、青山音楽賞、京都市芸術新人賞、現音富樫賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞奨励賞等受賞。ISCM世界音楽の日々2008 ヴィリニウス大会入選・参加。2011年「モノオペラ〈邪宗門〉」を発表。以後「四季の四部作」(吉川真澄)「二重協奏曲〈星巡ノ夜(ほしめぐりのよる)〉」(館野泉)「八幡大縁起(はちまんだいえんぎ)」(やわた市民音楽祭)「胡絃乱聲(こげんらんじょう)」(国立劇場)「とこよのはる」(森の会)等委嘱作品多数。17年出雲芸術アカデミー／コンポーザー・イン・レジデンス拝命、「出雲の春音楽祭」にて5年7作に亘る《連交響神樂》(管弦楽+声楽)進行中。19年正月NHK8K番組《落慶〜奈良・興福寺〜》音楽制作。20年コロナ禍に際し「時ノ祀リ二〇二〇臨時祭」をストリーミングにて展開。目下、くにたちオペラと同時進行で交響神樂第六番〈國譲(クニユズリ)〉を作曲中。

川口 智子 (かわぐち ともこ) ・演出家



東京学芸大学大学院修了。佐藤信に師事。2008年より演出活動を開始し、海外劇作家の翻訳上演、アジアのアーティストとの協働作業、音楽・ダンス・伝統芸能等ジャンルを超えた創作を多数展開。イギリスの劇作家サラ・ケインの戯曲上演に長年取り組み、代表作のコンテンポラリー・パンク・オペラ『4時48分 精神崩壊』(2020年初演)は、イギリス・コロネット劇場への招へいが決まっている。そのほかの演出作品に多和田葉子複数の私 Vol.3『動物たちのバベル』(2018年)、音楽劇『メドゥーサの罫』(2016年、主催：草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル、清水寛二との共同演出)など。『多和田葉子／ハイナー・ミュラー 演劇表象の現場』(東京外国語出版会)、『多和田葉子の〈演劇〉を読む』(論創社)に創作ドキュメントを執筆。東京学芸大学非常勤講師、立教大学大学院兼任講師。 www.tomococafe.com

北村 成美 (きたむら しげみ) ・ダンサー、振付家



通称、なにわのコリオグラファーしげやん。6歳よりバレエを始め、1992年英国ラバンセンターにて振付を学ぶ。「生きる喜びと痛みを謳歌するたくましいダンス」をモットーに、国内外でのソロダンス作品上演を軸に、日本各地で市民参加による大型コミュニティダンス作品を発表。劇場はもちろん、小・中・高校・特別支援学校、福祉施設、ショッピングモール、ご家庭の居間、廃屋、電車、海、山、いつでもどこでもどなたとでも踊ることをライフワークとしている。ミュージカルや演劇など舞台作品の振付・演出、音楽家や美術家との共同製作、CM振付や映像作品など数多く取り組む。平成15年度大阪舞台芸術新人賞、平成22年度滋賀県文化奨励賞を受賞。一般財団法人地域創造ダンス活性化支援事業登録アーティスト。

吉川 真澄 (よしかわ ますみ)・ソプラノ



岸和田生まれ。桐朋学園大学研究科声楽専攻修了。文化庁国内芸術インターンシップ研修生。オペラ「ボボイ」、モノオペラ「邪宗門」等多くの作品の初演を務める。〈DUO うたほぎ〉〈デュオ ORIGAMI〉を結成し、演奏機会の少ない作品や日本語の歌を歌う事に力を注いでいる。コロナ禍においてアカペラ、朗読、弾き歌いで構成される“ひとりっきりのコンサート”プロジェクトを始動。CDは「Pop Song」「うたほぎ vol.1~3」「四季の四部作」等。松方音楽大賞受賞。佐治敬三賞受賞。東京混声合唱団レジデントメンバー。エル・システムジャパン東京ホワイトハンドコーラス指導者。

渡辺 ゆき (わたなべ ゆき)・アルト



横浜出身。国立音楽大学附属音楽高等学校、国立音楽大学声楽科卒業。
2004~2017 東京混声合唱団員。2018 年国立劇場にて平野一郎作曲「胡絃乱聲」出演。
現在、町田シティオペラ会員、プルメリアミュージックスクール声楽講師を務める。アイリッシュハーブと歌のユニット「フェストゥーン」メンバー。

中嶋 俊晴 (なかじま としはる)・カウンターテナー



東京藝術大学大学院修士課程修了。ウィーン国立音楽大学大学院リート・オラトリオ専修およびアムステルダム音楽院修士課程バロック声楽専攻を共に満場一致の最優秀栄誉賞付きにて修了。バロック音楽を中心にオペラ、宗教曲、現代音楽のソリストとして活躍中。日本音楽コンクール、プラームス国際コンクール、国際ペティレック現代歌曲コンクール等で入選入賞を果たした。野村財団海外留学助成者、RMF 奨学生、文化庁新進芸術家海外研修員として欧州各地で研鑽を積んだ。令和2年度五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。

平野 太一朗 (ひらの たいちろう)・テノール



1992 年鹿児島県出身。'15 年に東京芸術大学卒業、'19 年に東京混声合唱団入団。アマチュアの合唱指揮や指導も行う。'13 年にオペレッタ『こうもり』でデビュー。以降、オペラの舞台でも活動し、多彩なキャラクターを演じ分けることを信条としている。

出演歴(時系列):『こうもり』アルフレード(日本語上演)・伊藤康英作曲『ミスター・シンデレラ』卓也・『魔笛』モNSTATOS(日本語上演)・『メリー・ウィドウ』カミーユ(抜粋、日本語上演)・林光作曲『おこんじょうり』ごんすけ・『蝶々夫人』ゴロー、ほか (撮影:いはらほつみ)

奥秋 大樹 (おくあき だいき)・バス



武蔵野音楽大学声楽科卒業、同大学大学院声楽専攻首席修了、第 88 回日本音楽コンクール声楽部門(オペラ)入選、第 48 回イタリア声楽コンコルソ金賞、第 2 回ロシア声楽コンクール学生部門第 1 位ならびに翌第 3 回ロシア声楽コンクール一般部門第 1 位入賞。その他各種コンクール上位入賞多数。テレビ東京カラオケ☆バトルに出場など TV 出演も多数。声楽を亀井陽二氏、岸本力氏、Luther-H.Ichimura 氏に師事。

滝本 直子 (たきもと なおこ)・俳優



自由の森学園高等学校卒業後、渡英。2008年「劇団黒テント」入団。近年の出演作に『亡国のダンサー』（劇団黒テント、佐藤信演出）、『あらしのよるに』（日生劇場、立山ひろみ演出）、『夜ヒカル鶴の仮面』（くにたち市民芸術小ホール、多和田葉子作、川口智子演出）、『4.48 PSYCHOSIS』（サラ・ケイン作、川口智子演出）など。自由の森学園高等学校非常勤講師。

山田 宗一郎 (やまだ そういちろう)・俳優



一橋大学卒業。三年間一般企業で勤務し、世間の水が合わないことを入念に確認した後、座・高円寺劇場創造アカデミーに入所。修了後は幅広いジャンルの作品に出演する。主な出演作にフランドン農学校の豚〜注文の多いオマケ付き』（座・高円寺、西沢栄治演出、宮沢賢治原作）、『タバタバ』（ベルナルド=マリ・コルテス作、川口智子演出）、ブロードウェイミュージカル『メリリー・ウィー・ロール・アロング』（天王洲銀河劇場、宮本亜門演出）など。一児の父。

池上 英樹 (いけがみ ひでき)・マリンバ、打楽器



8歳から演奏を始める。大阪教育大学を経て、ロームミュージックファンデーション、野村国際財団より奨学金を受け、1997年パリ国立音楽院(CNR)、パリ国立高等音楽院(CNSM)へ留学。1997年第46回ミュンヘン国際音楽コンクール打楽器部門で最高位入賞。その後カールスルーエ音楽大学(KE)で学ぶ。1999年第16回日本管打楽器コンクール打楽器部門第2位入賞。2004年度青山音楽賞、2005年度文化庁芸術祭音楽部門新人賞などを受賞。

1997年より世界各地の音楽祭に招かれる。交響楽団との共演、テレビ出演も多数。

即興演奏、ダンスとのコラボレーション、ワークショップなど、常に新しい打楽器の可能性を模索、追求している。

多久 潤一郎 (たく じゅんいちろう)・フルート



東京藝術大学在学時より現代音楽を中心に活動を始め、国内外の作曲家の新作初演を多数手がける。ソリストとしてもこれまでに新日本フィルハーモニー管弦楽団はじめ数々のオーケストラと協奏曲を共演した。また自身がリーダーを務める『マグナムトリオ』はイギリスやカナダ、ロシア、韓国他様々な国の音楽祭からの招待公演を行なっている。レコーディングも多く、米津玄師『パブリカ』、アニメ『鬼滅の刃』などのフルート、笛類も担当している。

鈴木 広志 (すずき ひろし)・サクソフォン



クラシック、ジャズ、ポップス、現代音楽の分野で活躍するサクソフォン奏者/作曲家。狩野永徳作の国宝 上杉本洛中洛外図屏風とのコラボレーションをはじめ、活弁と生演奏による無声映画の上映や様々な企画で西へ東へ。朝ドラ「あまちゃん」大河ドラマ「いだてん」(音楽 大友良英)ではテーマ曲/劇中音楽を演奏。清水靖晃、大橋トリオ、椎名林檎、くるり、林正樹、ゴンチチ、田中庸介、小野リサらと国内外のフェスティバルやレコーディングで共演を重ねる。東京藝大卒。

photo by Shotoku Koh

佐藤 芳明 (さとう よしあき)・アコーディオン



国立音楽大学在学中に独学でアコーディオンを始める。
卒業後渡仏、C.I.M.Ecole de Jazzにてアコーディオニスト・Daniel Mille に師事。
既存のアコーディオンのイメージにとらわれない独自のサウンドで、ライブ、レコーディング、アーティストサポート、舞台音楽など、様々な現場で数多くの仕事をこなし、国内外を問わず、ジャンルを越えて幅広く活動。

西谷 牧人 (にしや まきと)・チェロ



奈良県出身。東京藝術大学及び大学院を修了後渡米し、インディアナ大学にて堤剛、ヤーノシュ・シュタルケル両氏の下で研鑽を積む。2005年に帰国し兵庫芸術文化センター管弦楽団に創設メンバーとして在籍後、2008～2019年まで東京交響楽団の首席チェロ奏者を務める。2013年度青山音楽賞受賞、2008～2017年東京藝術大学非常勤講師。現在ソロ活動と共にジャンルを超えた演奏活動を行っている。

悪原 至 (あくはら いたる)・打楽器



国立音楽大学卒業時に矢田部賞を受賞し、同大学院修士課程修了時には最優秀賞を受賞。同大学大学院より博士号(音楽)を取得。ALM Recordsより最新のアルバム『悪原至×打楽器II』を含む2枚のCDをリリース。2021年、東京オペラシティ文化財団主催のリサイタルシリーズ「B→C」に出演。第23回日本クラシック音楽コンクールなど、国内4つのコンクールで第1位を受賞。洗足学園音楽大学、国立音楽大学附属中学・高等学校非常勤講師。

齋藤 綾乃 (さいとう あやの)・打楽器



桐朋学園大学音楽学部打楽器専攻卒業。桐朋オーケストラ・アカデミー研修過程修了。2014年(公財)千葉交響楽団入団。2016年INC.とサイスタジオ共催 朗読と打楽器によるデヴィッド・オーバーン作「ブルーフ-証明-」出演。2018年千葉響有志公演にてラヴェル作 組曲「マ・メール・ロワ(室内楽編曲版)」、2019年同公演プロコフィエフ作「ピーターと狼」の打楽器とナレーション担当。打楽器トリオ「とことんトン!」メンバー。

新野 将之 (にいの まさゆき)・打楽器



国立音楽大学打楽器科を首席で卒業。イタリア国際打楽器コンクール、チェジュ国際管打楽器コンクール、日本国際打楽器コンクールにて最高位を受賞。
東京コンサーツ所属。地域創造公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)アーティスト。ブラックスワンパーカッション社/サンダーボルトパーカッション社アーティストエンドローサー。NONAKAパーカッションアドバイザー。東京音楽学院講師。錦城高等学校非常勤講師。

三神 絵里子 (みかみ えりこ)・打楽器



神奈川県横浜市出身。東京・神奈川を中心にマリンバソロやアンサンブル、ワークショップ、講師などを行う傍ら、2016年よりハンドパン演奏を開始、多岐にわたり、活動を広げる。
桐朋学園大学音楽学部マリンバ専攻卒業、同大学研究科修了。マリンバを安倍圭子、高田亮、打楽器を佐野恭一、塚田良幸の各氏に師事。「Youth Classic」「Marimba Cofflet」メンバー。

©T.Tairadate